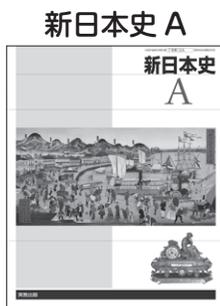


新課程用教科書のご案内

2014年度よりご使用いただける新刊教科書（予定）を執筆者がご紹介します。ご検討の参考にしていただければ幸いです。*教科書の見本は5月以降にご覧いただけます。

2014年度用 発行予定教科書



「新日本史 A」執筆にあたって

神奈川県立柏陽高等学校教諭 矢野 慎一

いま日本の近現代史を子どもたちに教えることの重要性が、様々な立場から指摘されている。それぞれの動機・目的はともかく、現代とこれからの未来を生きる子どもたちに、現代の日本が成り立つ基礎を学んでもらうことがいかに重要であるかは言うまでもない。そうした「日本史 A」の授業において、子どもたちにとって学びやすい、使いやすい教科書をつくるのが私たちの目標である。

編修に際して最も心を砕いたのは、教科書の本文はなるべくやさしい言葉で叙述し、幅広い多くの生徒に読んでもらえるようにすることである。もちろん文章の量も必要最小限に絞り込んだ。しかし、叙述内容には最新の歴史学における研究成果や問題関心を盛り込むことに留意して、学問的な質を維持している。具体的なキーワードとして、「帝国・植民地・国民・都市・ジェンダー・身体・運動」などが

あるが、そうした内容を教科書本文とともに、「人物スポットライト」・「Topic」・「ピックアップ」などの小コラム欄を活用して叙述することに努めた。さらに子どもたちの理解を助けるため、従来の教科書では用いられていない新しい写真や絵画を掘り起こして大きく掲載したり、地図やグラフ・表を多用して、視覚的にもわかりやすい構成にしている。各章の冒頭には世界地図と図版で構成したページを置き、同時代の世界と日本の動きを対比して学ぶことができるようにしている。また各単元の冒頭に、図版と組み合わせた読み解き（「考えてみよう」）を配して、生徒の問題関心に応じて発展学習も可能な構成をとっている。コラム「パスポート・健康・軍隊・植民地・運動・裁判・災害・エネルギー」や巻末の「地域からみた日本」では主題学習・地域学習の例示も行っている。

この教科書を使って日本の近現代史を学ぶことで、子どもたちが自らの未来と日本の未来を考え、主体的に行動してくれることを期待している。

「日本史 B」執筆にあたって

神奈川県立横浜緑園総合高等学校非常勤講師

川島 敏郎

今次の高等学校新学習指導要領により、「日本史 B」の内容は著しく様変わりした。特に中項目として、①「歴史と資料」(一部改変)のほかに、②「歴史の解釈」・③「歴史の説明」・④「歴史の論述」が新設され、発展段階的に取り扱うことが求められた。

本書では、この中項目の重要性に鑑み、十分な頁を割いて例示を試みた。①では歴史資料として『伴大納言絵巻』を採り上げ、他の資料と関連づけながら歴史を読み解く手法を示し、②では中世の遠江国見付宿の歴史資料を介して町の推移や変化の様子を調べて相互の因果関係に留意させ、③では近世の結婚と離縁に関する資料に基づいて歴史的事象には複数の歴史的解释が成り立つことを示し、④では地域の戦争遺跡を探究する活動を通して歴史的な見方や考え方を身に付けさせるように配慮し、「歴史は暗記」という考えからの脱却を図った。

「高校日本史 B」執筆にあたって

東京学芸大学特任教授 加藤 公明

いかに多くの高校生が歴史の勉強とは教科書を暗記することと思込んでいることでしょうか。そのような受け身の学習観は、彼らの消極的で低い歴史意識と表裏の関係にあり、これからの日本という国家のあり方や世界のすう勢、自分の生き方はいかにあるべきかを考える時に歴史から学ぼうとしない彼らの姿勢を生みだしています。そのような学習観を打破し、高い歴史意識を持ち、多くのことを歴史から学ぼうとする意欲と、それを可能にする探究力をもつ高校生を育てたい。その思いこそが「高校日本史 B」を執筆した私たち歴史研究者・歴史教育者の原動力です。

ですから、この教科書では、まず最初に読者である高校生に歴史を主体的に学ぼうと呼びかけています。つまり、歴史に疑問を発見し、それを自分たちの知恵で解き、歴史の流れを自分たちなりに描くことが大切である、と。そして、どうしたらそんなことができるのかを、具体的に例示していきます。そ

また、新学習指導要領では、各時代の学習の主要目的として、国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させることが強調されている。そのため、各時代に亘り、東アジアや世界情勢とも絡めて歴史を叙述するように配慮した。特に国際関係が緊密化する近・現代史の分野、中でもとりわけ戦後史については、大幅な増頁を行い、ごく直近の東日本大震災・原発事故等にも言及している。

さらに、以前から先生方に教えにくいとか、まとめにくいとのご指摘を頂いている「律令制度の成立」・「荘園公領制の展開」・「武家社会の成立」等については、従来の章・節立ての枠組みを一部改変したところもある。それに関連して、古代から近・現代の各時代ごとに、2ページ見開きの主題学習を4項目新設してご要望にお応えした。テーマは、「古代の土地制度」・「中世の仏教」・「近世の学問の流れ」・「日本植民地下の台湾・朝鮮の人々」で、他の教科書には見られない斬新な内容になっていると自負している。今後とも、忌憚のないご意見やご要望をどしどしお寄せ頂ければ幸いです。

れが、「歴史と資料 追究一口分田からの収穫で生活できたのか」「歴史の解釈 絵巻物『一遍上人絵伝』を読む」「歴史の説明「鎖国」を考える」「歴史の論述 もう一つの戦争」と続く4編のシリーズ記事です。どれも、2人の高校生が登場し、教師からの解説などをヒントに自分たちで歴史の謎や疑問、問題を解明していきます。4編合わせて16ページとなる記述は歴史解明の手がかりとなる資(史)料や関係する図版、写真もふんだんに載っており、生徒が興味をもって自主的に読み進められる魅力的なページとなっています。そして、高校生でも、自分たちの知識や思考力、そして感性を用いて、資料から必要な事実を見出し、合理的に解釈していけば歴史の真実を知ることができることを、生徒たちが具体的に理解していける構成になっています。

そのほかにも、生徒にとって学びやすい教科書、先生方にとっては魅力的な教材が豊富に掲載されていて授業で使いやすい教科書たるべく、「高校日本史 B」はさまざまな工夫や改善を行いました。どうか実際に手に取って確かめてください。

「高校政治・経済」執筆にあたって

立命館大学教授 森 裕之

政治や経済について若い世代が興味・関心を抱き、常に自らの問題として考え続けていくことは、これからの日本の未来にとって決定的に重要なことである。もとより現代社会における諸問題は自然科学のように解が一意的に決まるようなものではない。そのため、政治経済の学習においても、社会科学の基礎的な知識を正確に理解した上で、世の中のさまざまな問題を瑞々しく感じ取り、それらを柔軟な思考力によって考える「理論と実践」の知的営みが大切になる。

新版の「高校政治・経済」はこのような思いを込めて、次世代を担う高校生たちが将来社会の主人公として育っていくことを念頭に作られた。このような企図は旧版でも一貫してきたものであり、新版でもその特長は引き継がれている。しかし、グローバル化による経済や雇用の不安定化、政治体制や民主主義の揺らぎ、社会保障や財政の持続可能性への懸

念、環境問題のさらなる悪化、エネルギー問題の課題、防災・減災のあり方など、現在日本を取り巻く状況は、深刻で困難な局面に入っている。歴史をふまえた正しい現実認識、広い国際的視点にたった発想、優れた社会的思考力がますます求められている。新版はその期待に応える意図をもつ。

新版では第1編「現代の政治」、第2編「現代の経済」ともに、現代社会をとらえる上で重要な知識と見方をわかりやすく網羅した。今後を見通すために不可欠な思想や制度にあらためて光を当てた点も、この2つの編の大きな特長となっている。第3編「現代社会の諸課題」では、高校生たちが現実を直視し、自主的・自立的に社会の諸問題に対処していくための姿勢や能力を形成する上で必要なトピックスを精選した。その内容については、前2編で示された政治や経済の基礎的知識との関連についても強く意識した記述がなされている。

この新版が、不透明で困難な現実の中で、高校生たちが偏狭な思い込みや浅薄な発想にとらわれない自立的な精神を鍛える一助になることを願っている。

「最新政治・経済」執筆にあたって

東京都立戸山高等学校教諭 高橋 朝子

新指導要領が述べている「一層の変化が予想される社会」についての資料をできる限り示し、生徒自身が現実社会を深く考えることができるように工夫した教科書である。特徴を述べよう。

①見開き2ページ構成

原則見開きで1単元としている。生徒は、最初の「Point of Study」で、この単元で何を学べばいいか頭に入れ、2ページ目の「キーワード」で重要語を確認できる。写真、グラフ、表を数多く取り入れているので、視覚的に理解しやすい。

②特徴のあるページ：「歴代内閣と日本の歩み」、 「introduction」、 「Visual 特集」

表見返しから4ページ分が戦後の年表になっている。日本や世界の主なできごとが、内閣総理大臣の顔写真とともに示されているので、よりイメージしやすいと思う。1、2編最初の「introduction」では大胆に漫画をおき、生徒が興味をもって、ルールや経済の基本について考えることができるようにな

っている。また、3編の「introduction」は、東日本大震災を振り返り、日本の課題を考える複合的な教材である。一方、「Visual 特集」では、人間の安全保障、世界経済、地球環境、エネルギーの4テーマについて、地球規模の流れやそれぞれの国の大まかな様子が俯瞰できるように工夫した。

③特徴のある内容：「時事コラム」、 「なるほどQ&A」、 「Navi」

選挙結果や基地問題、年金制度改革などについては最新の動向が整理しやすいように「時事コラム」で解説した。また、需要・供給曲線やGDP、外国為替相場など、生徒がつまづき易い内容については、16の「なるほどQ&A」で詳しく解説している。さらに、高卒求人票から労働者の権利について考えたり、架空請求された時の対処法を学んだり、実生活ですぐに役立つであろう内容は、「Navi」として7テーマをおいている。

センター試験に出題された「囚人のジレンマ」などもとり入れた、受験にも対応可能な豊富な内容の平易な教科書が本書の特徴である。本書が生徒の視野を広げ、学習の一助となることを期待している。